埼玉工業大学

卒業後アンケート調査集計結果とこれに基づく検証実施の報告

2025 年 3 月 学事統括室

【調査概要】

調査対象者: 卒業後1年目の学部卒業生(2023年度卒業生)

調査実施期間: 2024年9月2日(月)~2025年2月26日(水)

調 査 方 法 : Google フォームによる回答

文書を送付してアンケートの実施を周知

調 査 項 目 : 1. 現在の職業について

設問1-1~2 現在の就業状況

設問1-3 現在の就業状況と在学中の希望進路との一致度合

設問1-4 現在の職業の満足度

設問1-5 在学中に身に付けた学習成果について、現在の職業や生活の

中での有用性

設問1-6 在学中や卒業後に取得した資格の有用性や必要性

2. キャリアについて

設問2-1 スキルアップへの意欲や取り組み状況(卒業後の自律・自立

した学習への意欲)

設問2-2 キャリアアップへの意欲や取り組み状況

3. 学び直し・リスキリングについて

設問3-1 学び直し・リスキリングの必要性

4. 大学に期待すること(自由記述)

本学の教育研究活動に期待すること 本学の地域連携・産学官連携に期待すること 卒業生に対する支援について期待すること

【回答率】

文書送付数: 532件 回答者数: 21名 回答率(%): 3.9 %

回答者のみなさんについて

(回答者数 21 名に対して有効回答数は 21)

★ 在学時の所属学科 ※ 本学での最終的な所属

学部 学科	回答者数 (名)	割合 (%)
全体	21	100.0
工学部	13	61.9
機械工学科	4	19.0
生命環境化学科	2	9.5
情報システム学科	7	33.3
人間社会学部	8	38.1
情報社会学科	6	28.6
心理学科	2	9.5

★ 入学した試験の形態

選択肢	回答者数 (名)	割合 (%)
指定校推薦	9	42.9
一般入試	4	19.0
特別選抜型(スポーツ、留学生等)入試	3	14.3
大学入学共通テスト試験(大学入試センター試験)の単独利用型入試	3	14.3
一般入試と大学入学共通テスト試験(大学入試センター試験)の併用型入試	1	4.8
総合選抜型(AO)入試	1	4.8
その他	0	0
総計	21	100.0

★ 性別

選択肢	回答者数 (名)	割合 (%)
男性	19	90.5
女性	2	9.5
総計	21	100.0

I. 設問ごとの集計結果等とこれに基づく検証結果

1 現在の職業について

【設問】1-1.

現在の職業(業種)について該当する選択肢をチェックしてください。

【選択肢】

農業、林業

漁業

鉱業、採石業、砂利採取業

建設業 (設備工事、電気工事、電気通信・信号装置工事等含む)

製造業

電気・ガス・熱供給・水道業

情報通信業 (放送、情報サービス、映像制作・配給、新聞、出版、広告制作等含む)

運輸業、郵便業(鉄道、道路旅客運送、道路貨物運送、水運、航空運輸、倉庫業)

卸売業、小売業 (百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア)

金融業、保険業

不動産業、物品賃貸業

学術研究、専門・技術サービス業 (学術・開発研究機関、研究所、法律事務所、デザイン、著述・芸術家等含む)

宿泊業、飲食サービス業

生活関連サービス業、娯楽業 (洗濯・理容・美容・浴場業、旅行業、娯楽業等含む)

学校教育、その他の教育、学習支援業 (職業・教育支援施設、学習塾等含む)

医療、福祉 (保健衛生、社会保険・社会福祉・介護事業等含む)

複合サービス業 (郵便局、他に分類されない協同組合等含む)

サービス業 他に分類されないもの

(廃棄物処理、自動車整備、職業紹介・労働者派遣、警備、政治・経済・文化団体、宗教、外国公館等含む)

公務 他に分類されるものを除く (国家公務、地方公務)

進学

その他

【集計表1:回答者の現在の就業状況(業種)】

説明=集計結果を回答者数が多い順に並べた表

目的=回答者の現在の就業状況(業種)を把握する

選択肢	回答者数(名)	割合 (%)
製造業	7	33.3
情報通信業 (放送、情報サービス、映像制作・配給、新聞、出版、広告制作等含む)	6	28.6
運輸業、郵便業(鉄道、道路旅客運送、道路貨物運送、水運、航空運輸、倉庫業)	3	14.3
学校教育、その他の教育、学習支援業 (職業・教育支援施設、学習塾等含む)	1	4.8
生活関連サービス業、娯楽業 (洗濯・理容・美容・浴場業、旅行業、娯楽業等含む)	1	4.8
複合サービス業 (郵便局、他に分類されない協同組合等含む)	1	4.8
建設業 (設備工事、電気工事、電気通信・信号装置工事等含む)	1	4.8
進学	1	4.8
総計	21	100.0

【集計表2:回答者の現在の就業状況(業種)_在学時の所属学科別】

説明=集計表1について回答者の在学時所属学科による内訳を示した表目的=回答者の在学中の所属学科別に現在の就業状況(業種)を把握する

	回答	在学	全中の所	「属学科	れによるに	为訳	刺△
選択肢	者数 (名)	機械	生命	情シ	情社	心理	割合 (%)
製造業	7	3	1	1	2		33.3
情報通信業	6			5	1		28.6
(放送、情報サービス、映像制作・配給、新聞、出版、広告制作等含む)							
運輸業、郵便業	3		1		2		14.3
(鉄道、道路旅客運送、道路貨物運送、水運、航空運輸、倉庫業)							
学校教育、その他の教育、学習支援業	1					1	4.8
(職業・教育支援施設、学習塾等含む)							
生活関連サービス業、娯楽業	1					1	4.8
(洗濯・理容・美容・浴場業、旅行業、娯楽業等含む)							
複合サービス業	1				1		4.8
(郵便局、他に分類されない協同組合等含む)							
建設業	1	1					4.8
(設備工事、電気工事、電気通信・信号装置工事等含む)							
進学	1			1			4.8
総計	21	4	2	7	6	2	100.0

【集計表3:回答者の現在の就業状況(業種)と在学中の希望進路との一致度合】

- 説明=集計表2について回答者の在学中の希望進路(後述の集計表6)との一致度合による 内訳を示した表
- 目的 = 回答者の現在の就業状況(業種)と在学中の希望進路とがどの程度一致しているのか を把握する

							在学	中の所	属学科	斗による	5内訳						
			機械			生命			情シ			情社			心理		
	回答者数			1-3	3 現在	の職業	は、在	学中に	希望し	ていたば	進路と-	一致して	います	か。			
選択肢	3数 (名)	希望進路と完全一致	希望進路に近い	希望進路ではない	割合 (%)												
製造業	7	2		1			1			1	1	1					33.3
情報通信業 (放送、情報サービス、映像 制作・配給、新聞、出版、 広告制作等含む)	6							4	1		1						28.6
運輸業、郵便業 (鉄道、道路旅客運送、道 路貨物運送、水運、航空運 輸、倉庫業)	3					1					1	1					14.3
学校教育、その他の教育、学習支援業 (職業・教育支援施設、 学習塾等含む)	1													1			4.8
生活関連サービス業、娯楽業 (洗濯・理容・美容・浴場 業、旅行業、娯楽業等含む)	1													1			4.8
複合サービス業 (郵便局、他に分類されない協同組合等含む)	1										1						4.8
建設業 (設備工事、電気工事、電 気通信・信号装置工事等 含む)	1		1														4.8
進学	1							1									4.8
総計	21	2	1	1	0	1	1	5	1	1	4	2	0	2	0	0	100.0

****** 検 証 結 果 ******

集計表1~3を確認すると、特に機械工学科及び情報システム学科については、以下のように考えることができます。

- ・学科の教育内容と所属学生の進路希望とがある程度一致している
- ・卒業生が、在学中の進路希望にある程度一致した職業(業種)に就くことができている

また、情報社会学科については、卒業生が幅広い職業(業種)についており、 かつ在学中の進路希望とある程度一致していることから、学科の教育内容が幅 広い進路希望に対応できていると考えることができます。

今後は、同様の設問により十分な回答者数を得ることで、学科の教育内容が所属学生の進路希望に沿ったものとなっているか等の検証をすすめていくこととし、その検証に基づいて学科の教育内容等の改善につなげていきたいと考えています。

【設問】1 - 2. 現在の職業について該当する選択肢をチェックしてください。

【選択肢】

研究者

農林水産技術者

製造技術者 (開発)

製造技術者(開発を除く)

建築·土木·測量技術者

情報処理・通信技術者

その他の技術者

教員

経営·金融·保険専門業従事者

事務従事者

販売従事者

サービス職業従事者

輸送・機械運転従事者

建設·採掘従事者

運輸·清掃等従事者

アルバイト・派遣

学生

その他

【設問】1 - 3. 現在の職業は、在学中に希望していた進路と一致していますか。

【選択肢】

完全に一致している。

完全に一致しているわけではないが、希望進路に近い。

一致はしておらず、希望進路ではない。

その他

【集計表 4:回答者の現在の就業状況(職業)】

説明 = 【設問1-2】の集計結果を回答者数が多い順に並べた表目的 = 回答者の現在の就業状況(職業)を把握する

選択肢	回答者数(名)	割合 (%)
情報処理·通信技術者	5	23.8
製造技術者(開発を除く)	3	14.3
製造技術者(開発)	2	9.5
サービス職業従事者	2	9.5
事務従事者	2	9.5
運輸·清掃等従事者	1	4.8
建築·土木·測量技術者	1	4.8
教員	1	4.8
輸送・機械運転従事者	1	4.8
営業	1	4.8
アルバイト・派遣	1	4.8
学生	1	4.8
総計	21	100.0

【集計表 5:回答者の現在の就業状況(職業)_在学中の所属学科別】

説明=集計表 4 について回答者の在学時所属学科による内訳を示した表目的=回答者の在学中の所属学科別に現在の就業状況(職業)を把握する

\254±11.0±	回答者数	在	E学中のP	所属学科	による内語	沢	割合
選択肢	(名)	機械	生命	情シ	情社	心理	(%)
情報処理·通信技術者	5			4		1	23.8
製造技術者(開発を除く)	3	1	1	1			14.3
製造技術者(開発)	2	1		1			9.5
サービス職業従事者	2				1	1	9.5
事務従事者	2				2		9.5
運輸·清掃等従事者	1				1		4.8
建築·土木·測量技術者	1	1					4.8
教員	1					1	4.8
輸送·機械運転従事者	1		1				4.8
営業	1				1		4.8
アルバイト・派遣	1	1					4.8
学生	1			1			4.8
総計	21	4	2	7	6	2	100.0

【集計表 6:回答者の現在の就業状況と在学中の希望進路との一致度合_在学中の所属学科別】

説明=【設問1-3】を在学中の所属学科別に集計した表

目的 = 回答者の現在の就業状況(職業)と在学中の希望進路とがどの程度一致しているのか を、在学中の所属学科別に把握する

\22.4mB+	回答 者数	在	E学中のP	所属学科	による内語	尺	割合
選択肢	(名)	機械	生命	情シ	情社	心理	(%)
完全に一致している。	13	2		5	4	2	61.9
完全に一致しているわけではないが、希望進路に近い。	5	1	1	1	2		23.8
一致はしておらず、希望進路ではない。	3	1	1	1			14.3
その他	0						0.0
総計	21	4	2	7	6	2	100.0

【集計表 7:回答者の現在の就業状況(職業)と在学中の希望進路との一致度合】

説明=集計表 5 について在学中の希望進路との一致度合(集計表 6)による内訳を示した表目的=回答者の現在の就業状況(職業)と在学中の希望進路とがどの程度一致しているのかを把握する

							在学	中の所	属学和	斗による	5内訳						
			機械			生命			情シ			情社			心理		
	回答			1-	3 現在	の職業	は、在	学中に	希望し	ていたは	焦路と-	一致して	います	いますか。			
選択肢	回答者数(名)	希望進路と完全一致	希望進路に近い	希望進路ではない	割合 (%)												
情報処理·通信技術者	5							4			1						23.8
製造技術者 (開発除)	3	1					1			1							14.3
製造技術者 (開発)	2	1							1								9.5
サービス職業従事者	2										1			1			9.5
事務従事者	2										1	1					9.5
運輸·清掃等従事者	1										1						4.8
建築·土木·測量技術者	1		1														4.8
教員	1													1			4.8
輸送•機械運転従事者	1					1											4.8
営業	1											1					4.8
アルバイト・派遣	1			1													4.8
学生	1							1									4.8
総計	21	2	1	1	0	1	1	5	1	1	4	2	0	2	0	0	100.0

****** 検 証 結 果 ******

集計表 4~7を確認すると、技術者となった卒業生については、そのほとんどが在学中の進路希望と完全一致した職業に就いていると回答していることから、学科が設置している専門的科目及び専門的知識を身に付けるための教育内容・方法により、卒業時には十分な専門的知識を身に付けることができており、これを活用できるような希望の職業に就いていると考えることができます。

今後は、同様の設問により十分な回答者数を得ることで、学科の専門科目等により身に付けた学習成果を活用できるような職業に就くことができている学生の割合を調査・検証していくこととし、その検証に基づいて、学科専門科目の教育内容・方法等の改善・充実につなげていきたいと考えています。

【その他の集計表】

集計表 7 については、これに業種区分を追加した集計表 7-1 も作成し、検証過程において確認しています。 集計表 7-1 は、付録として p.21 に掲載しています。

【設問】1-4.

現在の職業について、どの程度満足していますか。

区分(1)業務内容 (2)給与 (3)等級・役職 (4)人間関係

(5) ワークライフバランス (6) 業務や研修を通じた成長機会

【選択肢】

非常に満足 どちらかといえば満足 満足でも不満でもない

どちらかと言えば不満

非常に不満

【集計表8:回答者の現在の職業の満足度_区分別】

説明 = 区分別の集計結果について在学中の所属学科別に選択肢毎の回答者数・割合の内訳 を示した表

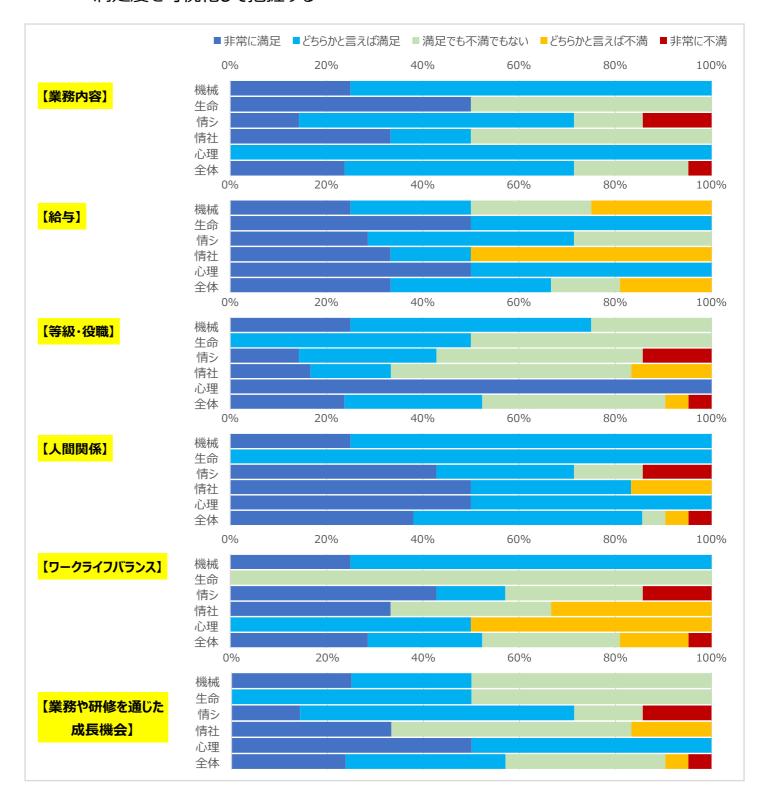
目的=回答者の現在の職業の満足度を区分別に把握する

		選択肢													
		各学	科の一位の割	割合の回答	答者数・割合	を青色太	文字で強調。	但し、同業	率一位の場合	には強調	しない。				
[区分]	学科	非常	に満足		かと言え 満足		でも不満 らない		かと言え 不満	非常	に不満	回答者数計			
		回答 者数 (名)	割合 (%)	回答 者数 (名)	割合 (%)	回答 者数 (名)	割合 (%)	回答 者数 (名)	割合 (%)	回答 者数 (名)	割合 (%)	(名)			
[業務内容]	機械	1	25.0	3	75.0							4			
	生命	1	50.0			1	50.0					2			
	情シ	1	14.3	4	57.1	1	14.3			1	14.3	7			
	情社	2	33.3	1	16.7	3	50.0					6			
	心理			2	100.0							2			
	全体	5	23.8	10	47.6	5	23.8	0	0.0	1	4.8	21			
[給与]	機械	1	25.0	1	25.0	1	25.0	1	25.0			4			
[110-7]	生命	1	50.0	1	50.0							2			
	情シ	2	28.6	3	42.9	2	28.6					7			
	情社	2	33.3	1	16.7			3	50.0			6			
	心理	1	50.0	1	50.0							2			
	全体	7	33.3	7	33.3	3	14.3	4	19.0	0	0.0	21			
[等級・役職]	機械	1	25.0	2	50.0	1	25.0					4			
	生命			1	50.0	1	50.0					2			
	情シ	1	14.3	2	28.6	3	42.9			1	14.3	7			
	情社	1	16.7	1	16.7	3	50.0	1	16.7			6			
	心理	2	100.0									2			
	全体	5	23.8	6	28.6	8	38.1	1	4.8	1	4.8	21			
[人間関係]	機械	1	25.0	3	75.0							4			
	生命			2	100.0							2			
	情シ	3	42.9	2	28.6	1	14.3			1	14.3	7			
	情社	3	50.0	2	33.3			1	16.7			6			
	心理	1	50.0	1	50.0							2			
	全体	8	38.1	10	47.6	1	4.8	1	4.8	1	4.8	21			
[ワークライフバ	機械	1	25.0	3	75.0							4			
	生命					2	100.0					2			
ランス]	情シ	3	42.9	1	14.3	2	28.6			1	14.3	7			
	情社	2	33.3			2	33.3	2	33.3			6			
	心理			1	50.0			1	50.0			2			
	全体	6	28.6	5	23.8	6	28.6	3	14.3	1	4.8	21			
「業務や研修	機械	1	25.0	1	25.0	2	50.0					4			
_	生命			1	50.0	1	50.0					2			
を通じた成長	情シ	1	14.3	4	57.1	1	14.3			1	14.3	7			
機会]	情社	2	33.3			3	50.0	1	16.7			6			
·IMA	心理	1	50.0	1	50.0							2			
	全体	5	23.8	7	33.3	7	33.3	1	4.8	1	4.8	21			

【グラフ1:回答者の現在の職業の満足度_区分別】

説明=集計表8を可視化したグラフ

目的=区分別の集計結果について、回答者の全体及び在学中の所属学科別に、現在の職業の 満足度を可視化して把握する



【集計表9:回答者の現在の職業の満足度_在学中の所属学科別】

説明 = 在学中の所属学科別の集計結果について区分別に選択肢毎の回答者数・割合の内訳 を示した表

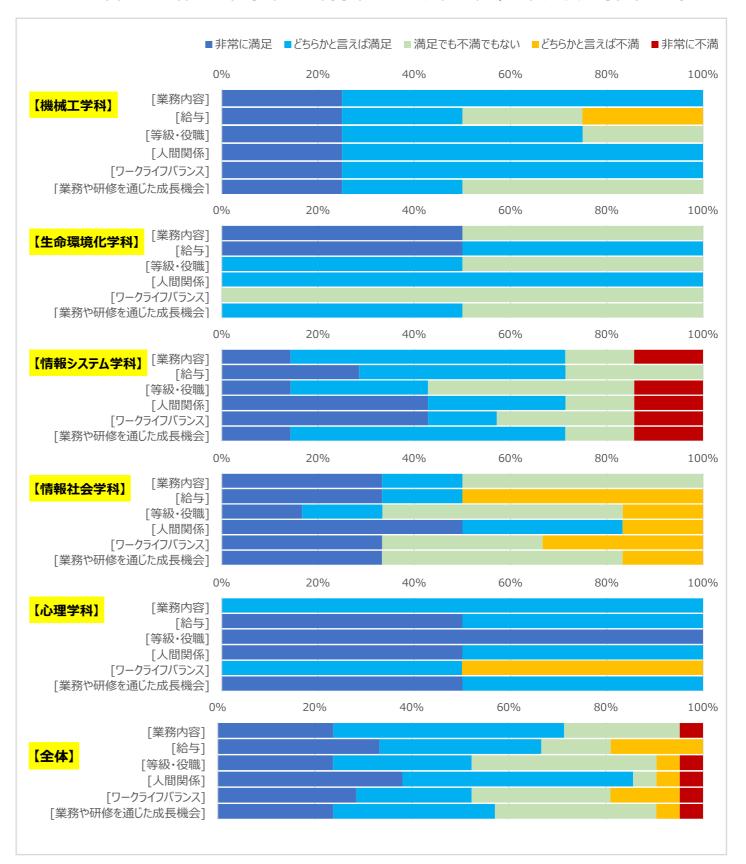
目的=回答者の現在の職業の満足度を在学中の所属学科別に把握する

		各区	分の一位の害	合の回答	答者数•割合		択肢 文字 で強調。	但し、同	率一位の場合	合には強調	問しない。	
学科	[区分]	非常	に満足	どちらば	かと言え 満足		≧でも不 ごもない		かと言え 不満	非常	に不満	回答者 数 計 (名)
		回答者数	割合 (%)	回答 者数 ^(名)	割合 (%)	回答 者数	割合 (%)	回答者数	割合 (%)	回答 者数	割合 (%)	(1)
	業務内容	1	25.0	3	75.0							4
	給与	1	25.0	1	25.0	1	25.0	1	25.0			4
機械	等級•役職	1	25.0	2	50.0	1	25.0					4
械	人間関係	1	25.0	3	75.0							4
	ワークライフバランス	1	25.0	3	75.0							4
	業務や研修を通じた成長機会	1	25.0	1	25.0	2	50.0					4
	業務内容	1	50.0			1	50.0					2
	給与	1	50.0	1	50.0							2
生命	等級·役職			1	50.0	1	50.0					2
命	人間関係			2	100.0							2
	ワークライフバランス					2	100.0					2
	業務や研修を通じた成長機会			1	50.0	1	50.0					2
	業務内容	1	14.3	4	57.1	1	14.3			1	14.3	7
	給与	2	28.6	3	42.9	2	28.6					7
情シ	等級·役職	1	14.3	2	28.6	3	42.9			1	14.3	7
シ	人間関係	3	42.9	2	28.6	1	14.3			1	14.3	7
	ワークライフバランス	3	42.9	1	14.3	2	28.6			1	14.3	7
	業務や研修を通じた成長機会	1	14.3	4	57.1	1	14.3			1	14.3	7
	業務内容	2	33.3	1	16.7	3	50.0					6
	給与	2	33.3	1	16.7			3	50.0			6
情社	等級•役職	1	16.7	1	16.7	3	50.0	1	16.7			6
社	人間関係	3	50.0	2	33.3			1	16.7			6
	ワークライフバランス	2	33.3			2	33.3	2	33.3			6
	業務や研修を通じた成長機会	2	33.3			3	50.0	1	16.7			6
	業務内容			2	100.0							2
	給与	1	50.0	1	50.0							2
心	等級·役職	2	100.0									2
理	人間関係	1	50.0	1	50.0							2
	ワークライフバランス			1	50.0			1	50.0			2
	業務や研修を通じた成長機会	1	50.0	1	50.0							2
	業務内容	5	23.8	10	47.6	5	23.8			1	4.8	21
	給与	7	33.3	7	33.3	3	14.3	4	19.0			21
全	等級·役職	5	23.8	6	28.6	8	38.1	1	4.8	1	4.8	21
全体	人間関係	8	38.1	10	47.6	1	4.8	1	4.8	1	4.8	21
	ワークライフバランス	6	28.6	5	23.8	6	28.6	3	14.3	1	4.8	21
	業務や研修を通じた成長機会	5	23.8	7	33.3	7	33.3	1	4.8	1	4.8	21

【グラフ2:回答者の現在の職業の満足度 在学中の所属学科別】

説明=集計表9を可視化したグラフ

目的=回答者の全体及び在学中の所属学科別に、現在の職業の満足度を可視化して把握する



【集計表 10:回答者の現在の職業の満足度_現在の就業状況と在学中の希望進路との一致度合別】

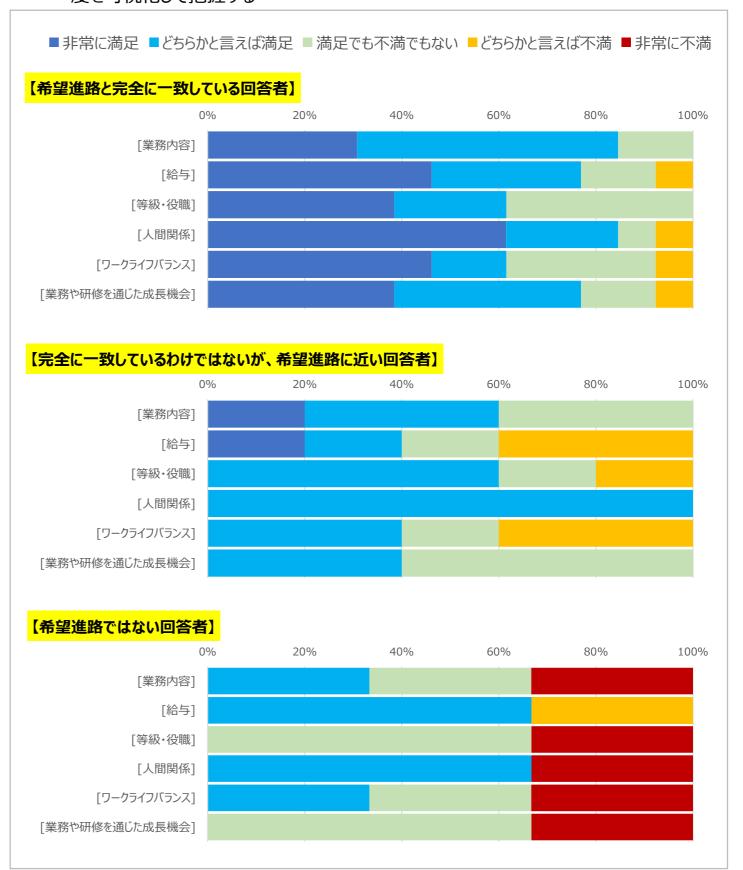
- 説明 = 現在の就業状況と在学中の希望進路との一致度合別の集計結果について区分別に選択肢毎の回答者数・割合の内訳を示した表
- 目的 = 回答者の現在の職業の満足度を、現在の就業状況と在学中の希望進路との一致度合別に把握する

の希望進路との一致度合現在の就業状況と在学中			:	各区分の	一位の割合の 但し、同率		数・割合を		字で強調。			
路と 別との一	[区分]	非常	に満足	どちらかと言え ば満足		満足でも不 満でもない		どちらかと言 えば不満		非常	回答 者数 計	
致度合		回答 者数	割合 (%)	回答 者数	割合 (%)	回答 者数	割合 (%)	回答 者数	割合 (%)	回答 者数	割合 (%)	(名)
希	業務内容	4	30.8	7	53.8	2	15.4					13
皇 進	給与	6	46.2	4	30.8	2	15.4	1	7.7			13
希望進路と完全に一	等級·役職	5	38.5	3	23.1	5	38.5					13
完全	人間関係	8	61.5	3	23.1	1	7.7	1	7.7			13
<u>[</u>	ワークライフバランス	6	46.2	2	15.4	4	30.8	1	7.7			13
致	業務や研修を通じた成長機会	5	38.5	5	38.5	2	15.4	1	7.7			13
完	業務内容	1	20.0	2	40.0	2	40.0					5
完全一点	給与	1	20.0	1	20.0	1	20.0	2	40.0			5
希望進路に近い土一致ではないが	等級·役職			3	60.0	1	20.0	1	20.0			5
になる	人間関係			5	100.0							5
が、が、	ワークライフバランス			2	40.0	1	20.0	2	40.0			5
	業務や研修を通じた成長機会			2	40.0	3	60.0					5
*	業務内容			1	33.3	1	33.3			1	33.3	3
希望	給与			2	66.7			1	33.3			3
希望進路ではない	等級·役職					2	66.7			1	33.3	3
では	人間関係			2	66.7					1	33.3	3
ない	ワークライフバランス			1	33.3	1	33.3			1	33.3	3
	業務や研修を通じた成長機会					2	66.7			1	33.3	3

【グラフ3:回答者の現在の職業の満足度_現在の就業状況と在学中の希望進路との一致度合別】

説明=集計表 10 を可視化したグラフ

目的 = 回答者の現在の就業状況と在学中の希望進路との一致度合別に、現在の職業の満足度を可視化して把握する



****** 検 証 結 果 ******

集計表8及びグラフ1を見ると、現在の職業の区分別満足度について、全体的な傾向として区分【業務内容】と【人間関係】の満足度が高いことが確認できます。また、区分【給与】を除いたその他すべての区分について非常に不満と感じている回答者が少数いることも確認できます。

集計表 9 及びグラフ 2 を見ると、現在の職業の満足度について、情報システム 学科の卒業生については、非常に不満という回答の割合が他の学科に比べて高く、 また、情報社会学科の卒業生については、どちらかと言えば不満という回答の割 合が他の学科に比べて高いことが確認できます。

集計表 10 及びグラフ3 を見ると、在学中の希望進路と一致している職業に就いている場合には、現在の職業についての満足度が総じて高くなり、逆に、在学中の希望進路ではない職業に就いている場合には、現在の職業についての満足度が区分によっては低くなるという傾向を確認できます。

在学中の希望進路と一致した職業に就いた場合には、実際に、その職業について高い満足度を感じる(就職後のミスマッチが生じていない)傾向があると考えることができます。

今後は、同様の設問により十分な回答者数を得ることで、在学中に身に付けた 学習成果と現在の職業の満足度との関連性の有無、在学中の所属学科と現在の職 業の満足度との関連性の有無、卒業後の就業状況と在学時の希望進路との一致度 合を高めることによる効果の検証等をすすめていくこととし、その検証に基づい て学科の教育内容や就職指導内容等の改善につなげていきたいと考えています。



【設問】1-5-1.

在学中に身に付けた専門的知識・能力・技術や教養、その他の知識・能力のなかで、現在の職業(または生活)において役立っていると思うものを複数選択してください。

【選択肢】

- A. 専門分野、研究専門分野の知識・能力・技術
- B. 専門的な知識・能力・技術を活用して問題・課題を解決するための能力
- C. 専門分野以外、研究専門分野以外の知識・能力・技術
- D. 研究室やゼミでの指導・学びに基づくプレゼンテーション能力
- E. 在学期間中に身に付けた知識・能力・技術を総合的に活用して創造的に思考する能力
- F. 自分で研究・考察した内容に基づき、一つの文書(卒業・学位論文等)を完成する能力
- G. コンピュータを操作・活用するための実践的な知識・能力・技術
- H. ICT (情報通信技術) を用いて、多様な情報を適正に収集・分析・判断できる能力
- I. 情報倫理(情報モラル)に則ったうえで、情報を効果的に活用できる能力
- 」. 論理的思考力【情報や知識を論理的に分析して表現できる能力】
- K. 数量的スキル【図形、記号、数式等を活用して分析し、理解・表現できる能力】
- L. 人文・社会・自然科学に関する一般的な知識
- M. 多文化・異文化、多様性・共生社会に関する知識
- N. 外国語によるコミュニケーション能力
- O. 日本語によるコミュニケーション能力

どれも役立っていない

その他:

【集計表 11:回答者が在学中に身に付けた知識・能力等のなかで、 現在の職業・生活において役立っているもの】

説明 = 集計結果を、回答者数に対する回答数の割合が多い順に並べた表(複数回答可) 目的 = 回答者の現在の職業・生活内における、在学時に身に付けた知識・能力等の有用性 を把握する

選択肢	回答数 ※ 1	割合 (%) ※ 2
G. コンピュータを操作・活用するための実践的な知識・能力・技術	12	57.1
A. 専門分野、研究専門分野の知識・能力・技術	11	52.4
E. 在学期間中に身に付けた知識・能力・技術を総合的に活用して創造的に思考する能力	9	42.9
B. 専門的な知識・能力・技術を活用して問題・課題を解決するための能力	8	
D. 研究室やゼミでの指導・学びに基づくプレゼンテーション能力	8	38.1
O. 日本語によるコミュニケーション能力	8	
H. ICT(情報通信技術)を用いて、多様な情報を適正に収集・分析・判断できる能力	7	22.2
I. 情報倫理(情報モラル)に則ったうえで、情報を効果的に活用できる能力	7	33.3
C. 専門分野以外、研究専門分野以外の知識・能力・技術	6	20.6
F. 自分で研究・考察した内容に基づき、一つの文書(卒業・学位論文等)を完成する能力	6	28.6
」. 論理的思考力【情報や知識を論理的に分析して表現できる能力】	5	22.0
K. 数量的スキル【図形、記号、数式等を活用して分析し、理解・表現できる能力】	5	23.8
M. 多文化·異文化、多様性·共生社会に関する知識	4	19.0
L. 人文・社会・自然科学に関する一般的な知識	3	14.3
N. 外国語によるコミュニケーション能力	2	٥٦
どれも役立っていない	2	9.5
その他:	0	0.0
総計	103	

- ※1 複数回答可。延べ回答数
- ※2 アンケートの回答者数 21 名に対する回答数の割合

****** 検 証 結 果 ******

集計表 11 から全学的な傾向を見ると、六割程度の回答者が、在学中に身に付けた「コンピュータを操作・活用するための実践的な知識・能力・技術」や「専門分野、研究専門分野の知識・能力・技術」について、現在の職業や生活で役立つ学習成果として実感していることを確認できます。また、四割程度の回答者が、「在学期間中に身に付けた知識・能力・技術を総合的に活用して創造的に思考する能力」について、同様の実感を持っていることを確認できます。

以上のことから、コンピュータ実習科目やプログラミング演習科目、専門科目、 卒業研究科目や総合演習・総合研究演習科目により身に付けることのできる知識・ 能力・技術(学習成果)の有用性が高いと考えることができます。

今後は、同様の設問により十分な回答者数を得ることで、在学中に身に付けた 学習成果の有用性について、全学的な検証及び所属学科別の検証をすすめていく こととし、その検証に基づいて学習成果の設定等の改善につなげていきたいと考 えています。

【その他の集計表】

集計表 11 については、これに所属学科による内訳を示した集計表 11-1 及び 11-2 も作成し、検証過程において確認しています。

集計表 11-1 及び 11-2 は、付録として p.22~23 に掲載しています。



【設問】1-5-2.

授業科目(学外実習・インターンシップ等含む)を通じて身に付けた、以下の能力・態度・志向性のなかで、現在の職業(または生活)において役立っていると思うものを複数選択してください。

【選択肢】

- 1. 自己管理力
- 2. チームワークカ
- 3. リーダーシップ(指導力、統率力)
- 4. 倫理観
- 5. 市民としての社会的責任(社会発展・貢献への意識)
- 6. 生涯学習力(自立・自律して継続的に学ぶ意欲)

どれも役立っていない

その他:

【集計表 12:回答者が授業科目を通じて身に付けた能力・態度・志向性のなかで、 現在の職業・生活において役立っているもの】

説明=集計結果を、回答者数に対する回答数の割合が多い順に並べた表(複数回答可)

目的 = 回答者の現在の職業・生活内における、授業科目を通じて身に付けた能力・態度・志向 性等の有用性を把握する

選択肢	回答数 ※ 1	割合 (%) ※ 2
1. 自己管理力	13	61.9
2. チームワークカ	10	47.6
6. 生涯学習力(自立・自律して継続的に学ぶ意欲)	10	47.6
4. 倫理観	9	42.9
5. 市民としての社会的責任(社会発展・貢献への意識)	7	33.3
3. リーダーシップ(指導力、統率力)	5	23.8
どれも役立っていない	3	14.3
その他:	0	0.0
総計	57	

- ※1 複数回答可。延べ回答数
- ※2 アンケートの回答者数21名に対する回答数の割合

****** 検 証 結 果 ******

集計表 12 から全学的な傾向を見ると、六割程度の回答者が、授業科目を通じて身に付けた「自己管理力」について、現在の職業や生活で役立つ学習成果として実感していることを確認できます。また、五割程度の回答者が、「チームワーク力」、「生涯学習力(自立・自律して継続的に学ぶ意欲)」について、四割程度の回答者が「倫理観」について、同様の実感を持っていることを確認できます。

以上のことから、授業科目を通じて、専門的な知識・能力・技術等の学習成果 に加えて、態度や志向性といった学習成果を身に付けることできていると考え ることができます。

今後は、同様の設問により十分な回答者数を得ることで、授業を通じて身に付けることができる学習成果 (特に態度や志向性) の有用性について、全学的な検証及び所属学科別の検証をすすめていくこととし、その検証に基づいて学習成果の設定や授業科目内容等の改善につなげていきたいと考えています。

また、対象とする授業科目を制限・指定することで、より具体的な検証を行う 事ができるようにする、といった設問自体の改善も検討していきたいと考えて います。

【その他の集計表】

集計表 12 については、これに所属学科による内訳を示した集計表 12-1 及び 12-2 も作成し、検証過程において確認しています。

集計表 12-1 及び 12-2 は、付録として p.24 に掲載しています。

【設問】1-5-3.

クラブ・サークル・団体活動、学内プロジェクト活動、ボランティア、海外研修等の 正課外活動を通じて身に付けた、以下の能力・態度・志向性のなかで、現在の 職業(または生活)において役立っていると思うものを複数選択してください。

【選択肢】

- 1. 自己管理力
- 2. チームワークカ
- 3. リーダーシップ(指導力、統率力)
- 4. 倫理観
- 5. 市民としての社会的責任(社会発展・貢献への意識)
- 6. 生涯学習力(自立・自律して継続的に学ぶ意欲)

どれも役立っていない

その他:

【集計表 13:回答者が正課外活動を通じて身に付けた能力・態度・志向性のなかで、現在の職業・生活において役立っているもの】

説明=集計結果を、回答者数に対する回答数の割合が多い順に並べた表(複数回答可)

目的 = 回答者の現在の職業・生活内における、正課外活動を通じて身に付けた能力・態度・志 向性等の有用性を把握する

選択肢	回答数 ※ 1	割合 (%) ※ 2
2. チームワークカ	9	42.9
6. 生涯学習力(自立・自律して継続的に学ぶ意欲)	7	33.3
3. リーダーシップ(指導力、統率力)	6	
4. 倫理観	6	28.6
どれも役立っていない	6	
1. 自己管理力	5	22.0
5. 市民としての社会的責任(社会発展・貢献への意識)	5	23.8
その他: (所属していなかった。)	1	4.8
総計	57	

- ※1 複数回答可。延べ回答数
- ※2 アンケートの回答者数21名に対する回答数の割合

******* 検 証 結 果 *******

集計表 13 から全学的な傾向を見ると、四割程度の回答者が、正課外活動を通じて身に付けた「チームワーク力」について、現在の職業や生活で役立つ学習成果として実感していることを確認できます。また、三割程度の回答者が「生涯学習力(自立・自律して継続的に学ぶ意欲)」、「リーダーシップ(指導力、統率力)」、「倫理観」について、同様の実感を持っていることを確認できます。

以上のことから、正課外活動を通じても、態度や志向性といった学習成果を身に付けることできていると考えることができます。

今後は、同様の設問により十分な回答者数を得ることで、正課外活動を通じて身に付けることができる学習成果(特に態度や志向性)の有用性について、全学的な検証及び所属学科別の検証をすすめていくこととし、その検証に基づいて正課外活動の推進等につなげていきたいと考えています。

また、三割程度の回答者が「どれも役立っていない」を選択していることについての検証もすすめていきたいと考えています。

【その他の集計表】

集計表 13 については、これに所属学科による内訳を示した集計表 13-1 及び 13-2 も作成し、検証過程において確認しています。

集計表 13-1 及び 13-2 は、付録として p.25 に掲載しています。

【設問】1-6-1.

現在の職業について、在学中に取得した資格は役立っていますか。

=> 在学中に取得した資格の中で、役立っていると判断できるものを具体的に教えて ください(いくつでも)

【選択肢】

非常に役立っている どちらかと言えば役立っている どちらとも言えない どちらかと言えば役立っていない まったく役立っていない 資格を取得していない

【集計表 14:回答者が在学中に取得した資格の有用性_在学中の所属学科別】

説明 = 集計結果を選択肢順に並べ、在学中の所属学科別の内訳を示した表に、回答者が役立っていると判断した具体的な資格別の内訳を示したもの

目的=回答者の現在の職業における、在学中に取得した資格の有用性を把握する

選択肢	回答者数	在	学中の別	所属学科	による内	訳	割合
役に立っている具体的な資格	首数 (名)	機械	生命	情シ	情社	心理	(%)
非常に役立っている	5			3	1	1	23.8
基本情報技術者 基本情報技術者試験	2			2			
教員免許	1					1	
簿記2級	1				1		
_	1			1			
どちらかと言えば役立っている	3	1			2		14.3
 IT パスポート試験	1	1					
基本情報技術者試験 ※1	1				1		
G 検定 ※1	(1)				(1)		
_	1				1		
どちらとも言えない	3		1	1	1		14.3
どちらかと言えば役立っていない	0						0.0
まったく役立っていない	2				2		9.5
資格を取得していない	8	3	1	3		1	38.1
総計	21	4	2	7	6	2	100.0

※1 同一回答者による複数回答のため、回答者数としては1名とする

******* 検 証 結 果 *******

集計表 14 から全学的な傾向を見ると、四割程度の回答者が、在学中に取得したなんらかの資格について、現在の職業において役立っていると実感していることを確認できます。また、在学中の所属学科別の傾向を見ると、情報システム学科及び情報社会学科については専門分野に関連して取得した資格が役立っていると考えることができます。

一方で、二割程度の回答者が「どちらとも言えない」または「まったく役立っていない」を選択していることからは、在学中に取得した資格が証明する能力(学習成果)と、現在の職業において必要とされている能力とが一致していない場合があると考えることができます。

今後は、同様の設問により十分な回答者数を得ることで、在学中に取得した (できる) 資格が証明する能力(学習成果)の有用性について、全学的な検証及 び所属学科別の検証をすすめていくこととし、その検証に基づいて資格の取得 機会や支援体制の充実、さらにはカリキュラムの改善等につなげていきたいと 考えています。

また、四割程度の回答者が「資格を取得していない」ことについての検証もすすめていきたいと考えています。

【設問】1-6-2.

現在の職業について、卒業後に取得した資格は役立っていますか。 在学中に身に付けた専門的知識・能力に関連するものについて教えてください。

=> 卒業後に取得した資格の中で、役立っていると判断できるものを具体的に教えてください(いくつでも)

【選択肢】

非常に役立っている どちらかと言えば役立っている どちらとも言えない どちらかと言えば役立っていない まったく役立っていない 資格を取得していない 在学中に身に付けた専門知識等に関連する資格は取得していない

【集計表 15:回答者が卒業後に取得した資格の有用性_在学中の所属学科別】

説明 = 集計結果を選択肢順に並べ、在学中の所属学科別の内訳を示した表に、回答者が役立っていると判断した具体的な資格別の内訳を示したもの

目的=回答者の現在の職業における、卒業後に取得した資格の有用性を把握する

選択肢	回答 者数	在	学中の所	「属学科	による内	訳	割合
役に立っている具体的な資格	(名)	機械	生命	情シ	情社	心理	(%)
非常に役立っている	1				1		4.8
フォークリフト	1				1		
どちらかと言えば役立っている	2				2		9.5
LinuC ※1	1				1		
応用情報技術者試験 ※1	(1)				(1)		
AWS クラウドプラクティショナー ※ 1	(1)				(1)		
- UML [に関する資格] ※ 1	(1)				(1)		
XML [に関する資格] ※ 1	(1)				(1)		
_	1				1		
どちらとも言えない	1			1			4.8
どちらかと言えば役立っていない	1		1				4.8
まったく役立っていない	0						0.0
在学中に身に付けた専門知識等に関連する資格 は取得していない	5	1		1	1	2	23.8
資格を取得していない	11	3	1	5	2		52.4
総計	21	4	2	7	6	2	100.0

※1 同一回答者による複数回答のため、回答者数としては1名とする

****** 検 証 結 果 ******

集計表 15 から全学的な傾向を見ると、五割程度の回答者が「資格を取得していない」を選択していることからは、卒業後の1年目において新たな資格を取得することの難しさや現在の職業において新たな資格の取得を必要としていない状況等を考えることができます。また、二割程度の回答者が「在学中に身に付けた専門知識等に関連する資格は取得していない」を選択していることからは、現在の職業において在学中に身に付けた専門知識等に関連しない資格の取得を求められている場合があると考えることができます。

また、卒業後に取得した中で、回答者が役立っていると判断した資格については、例えば、在学中でも取得ができる資格として新たに設定し、そのためのカリキュラムやプログラムを整備するかどうかといった検討を行う必要があると考えています。

今後は、アンケート調査対象者に卒業後数年を経過した卒業生(例えば、3年目、5年目等)を加えて、十分な回答者数を得ることを目標とします。

その上で、卒業後に取得した資格が証明する能力(学習成果)の有用性について、全学的な検証及び所属学科別の検証をすすめていくこととし、その検証に基づいて新たな資格の取得機会の設定や、これに伴うカリキュラムの改善等につなげていきたいと考えています。

【設問】1-6-3.

現在の職業に関連して、在学中または卒業後に取得できていれば良かったと 判断できる資格を教えてください(いくつでも)。

【集計表 16:回答者が在学中または卒業後に取得できていれば良かったと判断した資格】

説明 = 回答者が在学中または卒業後に取得できていれば良かったと判断した具体的な資格について、在学中の所属学科別の内訳を示した表

目的=回答者の現在の職業において、必要としている資格(学習成果)を把握する

大光中ナルウツタに取得るキアルタばウム。	回答	在学中の所属学科による内訳								
在学中または卒業後に取得できていれば良かったと判断した具体的な資格	者数(名)	機械	生命	情シ	情社	心理				
SOLIDWORKS expert 又は professional	1	1								
フォークリフト	1				1					
応用情報技術者試験 LinuC AWS 系	1				1					
税理士資格	1				1					
総計	4	1	0	0	3	0				

****** 検 証 結 果 ******

集計表 16 から、卒業生が、在学中または卒業後に取得できていれば良かったと判断した具体的な資格について見ると、既存の教育課程では対応できないもの(税理士資格)がある一方で、既存の教育課程において資格取得支援が可能と考えることができるもの(3 次元 CAD ソフトウェア SOLIDWORKS 認定試験対策等)があることを確認できます。

今後は、アンケート調査対象者に卒業後数年を経過した卒業生(例えば、3年目、5年目等)を加えて、十分な回答者数を得ることを目標とします。

その上で、在学中または卒業後に取得可能な資格が証明する能力(学習成果) の有用性について、全学的な検証及び所属学科別の検証をすすめていくことと し、その検証に基づいて新たな資格の取得機会の設定や、これに伴うカリキュラ ムの改善等につなげていきたいと考えています。

2 キャリアについて

| (設問) 2 – 1.

現在、スキルアップを目指していますか。

=> 目指している、とお答えの方につきましては、差支えのない範囲で、どのように スキルアップする予定でいるのかを教えてください。

【選択肢】

目指している 検討中 目指していない わからない その他

【集計表 17:卒業後の自律・自立した学習の状況(スキルアップ)_在学中の所属学科別】

説明 = 集計結果を選択肢順に並べ、在学中の所属学科別の内訳を示した表に、回答者が予定している具体的なスキルアップの内容を示したもの

目的=回答者について、卒業後の自律・自立した学習の状況を把握する

選択肢	回答者数	在	学中の列	「属学科	れによるは	宗	割合	
具体的なスキルアップの予定	者数 (名)	機械	生命	情シ	情社	心理	(%)	
目指している	9			2	5	2	42.9	
これから自分が担当するお客様が増えてくると思うの でしっかりと知識や技術を身につけていきたい。	1					1		
会社内の資金繰りや予算編成などを行っていきたい。私生活では、資格の取得などでスキルアップを 目指している。	1				1			
採用試験合格	1					1		
_	6			2	4			
検討中	7	2	1	4			33.3	
目指していない	3	1	1	1			14.8	
わからない	2	1			1		9.5	
その他	0						0.0	
総計	21	4	2	7	6	2	100.0	

****** 検 証 結 果 ******

集計表 17 から全学的な傾向を見ると、七割程度の回答者が、卒業後の自律・ 自立した学習への意欲を持っており、その内の四割程度の回答者については実際にスキルアップを目指していると考えることができます。

今後は、アンケート調査対象者に卒業後数年を経過した卒業生(例えば、3年目、5年目等)を加えて、十分な回答者数を得ることを目標とします。

その上で、卒業後の自律・自立した学習の状況を把握、その状況からリスキリングや学び直しのニーズを検証することとし、その検証に基づいた卒業生支援の実施(履修プログラムの設置等)につなげていきたいと考えています。

【設問】2-2.

現在、キャリアアップを目指していますか。

=> 目指している、とお答えの方につきましては、差支えのない範囲で、どのように キャリアアップする予定でいるのかを教えてください ※。

【選択肢】

目指している 検討中 目指していない わからない その他

【集計表 18:卒業後のキャリアアップへの取り組み状況 在学中の所属学科別】

説明 = 集計結果を選択肢順に並べ、在学中の所属学科別の内訳を示した表 ※ キャリアアップの予定についての回答はありませんでした

目的=回答者について、卒業後のキャリアアップへの取り組み状況を把握する

	回答	7	E学中のF	听属学科	による内語	尺	割合
選択肢	者数 (名)	機械	生命	情シ	情社	心理	(%)
目指している	9			2	6	1	42.9
検討中	7	3	1	2		1	33.3
目指していない	4	1		3			19.0
わからない	1		1				4.8
その他	0						0.0
総計	21	4	2	7	6	2	100.0

****** 検 証 結 果 ******

集計表 18 から全学的な傾向を見ると、七割程度の回答者が、卒業後のキャリアアップへの意欲を持っており、その内の四割程度の回答者については実際にキャリアアップを目指していると考えることができます。

今後は、アンケート調査対象者に卒業後数年を経過した卒業生(例えば、3年目、5年目等)を加えて、十分な回答者数を得ることを目標とします。

その上で、卒業後のキャリアアップの状況を把握、その状況からリスキリング や学び直しのニーズを検証することとし、その検証に基づいた卒業生支援の実 施 (履修プログラムの設置等) につなげていきたいと考えています。

3 学び直し・リスキリングについて

(設問) 3-1.

他大学や他大学院において、社会人向けの学び直し・リスキリング講座や プログラムを受講していますか(受講する予定はありますか)。

=> 受講している(予定がある)、とお答えの方につきましては、差支えのない範囲で、受講している(受講を予定している)講座やプログラムの名称・内容等を教えてください(いくつでも)※

【選択肢】

受講している(予定がある) 検討中 受講していない(予定がない) わからない その他

【集計表 19:卒業後の自律・自立した学習の状況(リスキリング等)_在学中の所属学科別】

説明 = 集計結果を選択肢順に並べ、在学中の所属学科別の内訳を示した表 ※ プログラム等の受講 (予定) についての回答はありませんでした

目的 = 回答者について、卒業後の自律・自立した学習の状況を把握する

	回答	:	在学中の	听属学科	による内部	}	割合
選択肢	者数 (名)	機械	生命	情シ	情社	心理	(%)
受講している (予定がある)	0						0.0
検討中	1					1	4.8
受講していない (予定がない)	15	3	2	4	5	1	71.4
わからない	5	1		3	1		23.8
その他	0						0.0
総計	21	4	2	7	6	2	100.0

****** 検 証 結 果 ******

集計表 19 から全学的な傾向を見ると、七割程度の回答者が、社会人向けの学び直し・リスキリング講座やプログラムの受講を「受講していない(予定がない)」を選択していることから、卒業後の1年目においてはリスキリングや学び直しを必要としていない状況等を考えることができます。

今後は、アンケート調査対象者に卒業後数年を経過した卒業生(例えば、3年目、5年目等)を加えて、十分な回答者数を得ることを目標とします。

その上で、社会人向けの学び直し・リスキリング講座等の受講状況を把握、その状況から学び直しやリスキリングのニーズを検証することとし、その検証に基づいて、本学においても、学び直し・リスキリング講座やプログラムを開講するかどうか等の検討につなげていきたいと考えています。

4 大学に期待すること

今後、本学に期待することがありましたら、是非教えてください。(任意回答)

本学の教育研究活動に期待すること:

- DX 人材の確保に繋がる育成
- 教育大学でないので仕方ないことだとは思っているが、教職に関してでは、試験の作り方等も 教えてほしかった
- ない

本学の地域連携・産学官連携に期待すること:

● ない

卒業生に対する支援について期待すること:

● びみょー

****** 検 証 結 果 *******

任意回答のうち、「DX 人材の確保に繋がる育成」が期待されているということからは、回答者の現在の職業において DX 人材が求められていると考えることができます。

また、教職課程の授業について「試験の作り方等も教えてほしかった」という 点が期待されているということからは、回答者の現在の職業において必要となった能力・技術を具体的に確認することができます。

今後は、より多くの要望を把握することを目的として、この設問への回答を促 すような方法を検討していきたいと考えています。

Ⅱ.付録

【集計表7-1:回答者の現在の就業状況(業種・職業)と在学中の希望進路との一致度合】

【集計表11-1~2:回答者が在学中に身に付けた知識・能力等のなかで、 現在の職業・生活において役立っているもの__学科別】

【集計表12-1~2:回答者が授業科目を通じて身に付けた能力・態度・志向性のなかで、現在の職業・生活において役立っているもの_学科別】

【集計表13-1~2:回答者が正課外活動を通じて身に付けた能力・態度・志向性のなかで、現在の職業・生活において役立っているもの__学科別】

【集計表 7-1:回答者の現在の就業状況(業種・職業)と在学中の希望進路との一致度合】

説明=集計表7について業種区分を追加した表

記号 一来可扱 / にりい				,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			在学	中の所	属学科	斗による	5内訳						
	回		機械生命情シー情社の						心理								
	回答者数	-	1/2/1/20		<u> </u> 3 現有			<u> </u> 学中に	希望し	ていたi	L 焦路と-			<u>ー</u> か。	-0-1		
選択肢	数 (名)	完全一致	近い希望進路に	ない希望進路では		近い希望進路に		完全一致			完全一致			完全一致	近い希望進路に	希望進路では	(%)
製造業	7	2		1			1			1	1	1					33.3
製造技術者(開発を除く)	3	1		 			1			1					-	+	
製造技術者(開発)	1	1					-										
事務従事者	1										1						
<u></u>	1											1					
アルバイト・派遣	1			1													
情報通信業 (放送、情報サービス、映像制作・配給、新聞、出版、広告制作等含む)	6							4	1		1						28.6
情報処理·通信技術者	5							4			1						
製造技術者(開発)	1	_							1							-	
運輸業、郵便業 (鉄道、道路旅客運送、道路 貨物運送、水運、航空運輸、 倉庫業)	3					1					1	1					14.3
事務従事者	1											1					
運輸·清掃等従事者	1										1						
輸送·機械運転従事者	1					1											
学校教育、その他の教育、学習支援業 (職業・教育支援施設、学習 塾等含む)	1													1			4.8
教員														1			
生活関連サービス業、娯楽業 (洗濯・理容・美容・浴場業、 旅行業、娯楽業等含む)	1													1			4.8
サービス職業従事者														1			
複合サービス業 (郵便局、他に分類されない協 同組合等含む)	1										1						4.8
サービス職業従事者											1						
建設業 (設備工事、電気工事、電気 通信・信号装置工事等含む)	1		1														4.8
建築・土木・測量技術者			1														
進学	1							1									4.8
学生								1									
総計	21	2	1	1	0	1	1	5	1	1	4	2	0	2	0	0	

21 p.5に戻る

【集計表 11-1:回答者が在学中に身に付けた知識・能力等のなかで、

現在の職業・生活において役立っているもの__学科別】

説明=集計表 11 について回答者の在学中の所属学科による内訳を示した表

	回	在学	中の別	所属学 和	半による	内訳	割合
選択肢	答 数 ※ 1	機械	生命	情シ	情社	心理	(%) ※2
G. コンピュータを操作・活用するための実践的な知識・能力・技術	12	3		3	4	2	57.1
A. 専門分野、研究専門分野の知識・能力・技術	11	3		5	2	1	52.4
E. 在学期間中に身に付けた知識・能力・技術を総合的に活用して創造的に思考する能力	9	1		3	3	2	42.9
B. 専門的な知識・能力・技術を活用して問題・課題を解決するための能力	8	1		4	2	1	38.1
D. 研究室やゼミでの指導・学びに基づくプレゼンテーション能力	8			4	3	1	38.1
O. 日本語によるコミュニケーション能力	8	1	1	1	4	1	38.1
H. ICT(情報通信技術)を用いて、多様な情報を適正に収集・分析・判断できる能力	7			4	2	1	33.3
I. 情報倫理(情報モラル)に則ったうえで、情報を効果的に活用できる能力	7	1		3	2	1	33.3
C. 専門分野以外、研究専門分野以外の知識・能力・技術	6	1		2	2	1	28.6
F. 自分で研究・考察した内容に基づき、一つの文書(卒業・学位論文等)を完成する能力	6		1	2	2	1	28.6
」. 論理的思考力【情報や知識を論理的に分析して表現できる能力】	5			2	2	1	23.8
K. 数量的スキル【図形、記号、数式等を活用して分析し、理解・表現できる能力】	5			2	2	1	23.8
M. 多文化・異文化、多様性・共生社会に関する知識	4		1		2	1	19.0
L. 人文・社会・自然科学に関する一般的な知識	3				2	1	14.3
N. 外国語によるコミュニケーション能力	2		1		1		9.5
どれも役立っていない	2		1	1			9.5
その他:	0						0.0
総計	103	11	5	36	35	16	

^{※1} 複数回答可。延べ回答数 ※2 アンケートの回答者数21名に対する回答数の割合

<u>p.11に戻る</u>

【集計表 11-2:回答者が在学中に身に付けた知識・能力等のなかで、

現在の職業・生活において役立っているもの_学科別】

説明=集計表 11 について回答者の在学中の所属学科別の結果を抽出した表

【機械工学科】

選択肢	回答数※1	割合 (%) ※2
G. コンピュータを操作・活用するための実践的な知識・能力・技術	3	75.0
A. 専門分野、研究専門分野の知識・能力・技術	3	75.0
E. 在学期間中に身に付けた知識・能力・技術を総合的に活用して創造的に思考する能力	1	25.0
B. 専門的な知識・能力・技術を活用して問題・課題を解決するための能力	1	25.0
O. 日本語によるコミュニケーション能力	1	25.0
I. 情報倫理(情報モラル)に則ったうえで、情報を効果的に活用できる能力	1	25.0
C. 専門分野以外、研究専門分野以外の知識・能力・技術	1	25.0
総計	11	

※1 複数回答可。延べ回答数 ※2 アンケートの回答者数4名に対する回答数の割合

【生命環境化学科】

選択肢	回答数※1	割合 (%) ※2
F. 自分で研究・考察した内容に基づき、一つの文書(卒業・学位論文等)を完成する能力	1	50.0
M. 多文化·異文化、多様性·共生社会に関する知識	1	50.0
N. 外国語によるコミュニケーション能力	1	50.0
O. 日本語によるコミュニケーション能力	1	50.0
どれも役立っていない	1	50.0
総計	5	

※1 複数回答可。延べ回答数 ※2 アンケートの回答者数2名に対する回答数の割合

【情報システム学科】

選択肢	回答数※1	割合 (%) ※2
A. 専門分野、研究専門分野の知識・能力・技術	5	71.4
B. 専門的な知識・能力・技術を活用して問題・課題を解決するための能力	4	57.1
D. 研究室やゼミでの指導・学びに基づくプレゼンテーション能力	4	57.1
H. ICT(情報通信技術)を用いて、多様な情報を適正に収集・分析・判断できる能力	4	57.1
G. コンピュータを操作・活用するための実践的な知識・能力・技術	3	42.9
E. 在学期間中に身に付けた知識・能力・技術を総合的に活用して創造的に思考する能力	3	42.9
I. 情報倫理(情報モラル)に則ったうえで、情報を効果的に活用できる能力	3	42.9
C. 専門分野以外、研究専門分野以外の知識·能力·技術	2	28.6
F. 自分で研究・考察した内容に基づき、一つの文書(卒業・学位論文等)を完成する能力	2	28.6
」. 論理的思考力【情報や知識を論理的に分析して表現できる能力】	2	28.6
K. 数量的スキル【図形、記号、数式等を活用して分析し、理解・表現できる能力】	2	28.6
O. 日本語によるコミュニケーション能力	1	14.3
どれも役立っていない	1	14.3
総計	36	

※1 複数回答可。延べ回答数 ※2 アンケートの回答者数7名に対する回答数の割合

【情報社会学科】

選択肢	回答数 ※ 1	割合 (%) ※ 2
G. コンピュータを操作・活用するための実践的な知識・能力・技術	4	66.4
O. 日本語によるコミュニケーション能力	4	66.4
D. 研究室やゼミでの指導・学びに基づくプレゼンテーション能力	3	50.0
E. 在学期間中に身に付けた知識・能力・技術を総合的に活用して創造的に思考する能力	3	50.0
A. 専門分野、研究専門分野の知識・能力・技術	2	33.3
B. 専門的な知識・能力・技術を活用して問題・課題を解決するための能力	2	33.3
C. 専門分野以外、研究専門分野以外の知識·能力·技術	2	33.3
F. 自分で研究・考察した内容に基づき、一つの文書(卒業・学位論文等)を完成する能力	2	33.3
H. ICT(情報通信技術)を用いて、多様な情報を適正に収集・分析・判断できる能力	2	33.3
I. 情報倫理(情報モラル)に則ったうえで、情報を効果的に活用できる能力	2	33.3
」. 論理的思考力【情報や知識を論理的に分析して表現できる能力】	2	33.3
K. 数量的スキル【図形、記号、数式等を活用して分析し、理解・表現できる能力】	2	33.3
L. 人文・社会・自然科学に関する一般的な知識	2	33.3
M. 多文化·異文化、多様性·共生社会に関する知識	2	33.3
N. 外国語によるコミュニケーション能力	1	16.7
総計	36	

※1 複数回答可。延べ回答数 ※2 アンケートの回答者数6名に対する回答数の割合

【心理学科】

選択肢	回答数 ※ 1	割合 (%) ※ 2
E. 在学期間中に身に付けた知識・能力・技術を総合的に活用して創造的に思考する能力	2	100.0
G. コンピュータを操作・活用するための実践的な知識・能力・技術	2	100.0
A. 専門分野、研究専門分野の知識・能力・技術	1	50.0
B. 専門的な知識・能力・技術を活用して問題・課題を解決するための能力	1	50.0
C. 専門分野以外、研究専門分野以外の知識・能力・技術	1	50.0
D. 研究室やゼミでの指導・学びに基づくプレゼンテーション能力	1	50.0
F. 自分で研究・考察した内容に基づき、一つの文書(卒業・学位論文等)を完成する能力	1	50.0
H. ICT(情報通信技術)を用いて、多様な情報を適正に収集・分析・判断できる能力	1	50.0
I. 情報倫理(情報モラル)に則ったうえで、情報を効果的に活用できる能力	1	50.0
J. 論理的思考力【情報や知識を論理的に分析して表現できる能力】	1	50.0
K. 数量的スキル【図形、記号、数式等を活用して分析し、理解・表現できる能力】	1	50.0
L. 人文・社会・自然科学に関する一般的な知識	1	50.0
M. 多文化·異文化、多様性·共生社会に関する知識	1	50.0
O. 日本語によるコミュニケーション能力	1	50.0
総計	16	

※1 複数回答可。延べ回答数 ※2 アンケートの回答者数2名に対する回答数の割合

<u>p.11に戻る</u>

【集計表 12-1:回答者が授業科目を通じて身に付けた能力・態度・志向性のなかで、

現在の職業・生活において役立っているもの__学科別】

説明=集計表 12 について回答者の在学中の所属学科による内訳を示した表

		在学中の所属学科による内訳					割合
選択肢	答 数 ※ 1	機械	生命	情シ	情社	心理	部日 (%) ※2
1. 自己管理力	13		1	5	6	1	61.9
2. チームワークカ	10	1		4	3	2	47.6
3. リーダーシップ(指導力、統率力)	5			2	2	1	23.8
4. 倫理観	9	2	1	2	3	1	42.9
5. 市民としての社会的責任(社会発展・貢献への意識)	7	3	1	1	1	1	33.3
6. 生涯学習力(自立・自律して継続的に学ぶ意欲)	10	1		3	4	2	47.6
どれも役立っていない	3	1	1	1			14.3
その他:	0						0.0
総計	57	8	4	18	19	8	

^{※1} 複数回答可。延べ回答数 ※2 アンケートの回答者数21名に対する回答数の割合

【集計表 12-2:回答者が授業科目を通じて身に付けた能力・態度・志向性のなかで、

現在の職業・生活において役立っているもの_学科別】

説明 = 集計表 12 について回答者の在学中の所属学科別の結果を抽出した表

【機械工学科】

選択肢	回答数※1	割合 (%) ※2
5. 市民としての社会的責任(社会発展・貢献への意識)	3	75.0
4. 倫理観	2	50.0
2. チームワークカ	1	25.0
6. 生涯学習力(自立・自律して継続的に学ぶ意欲)	1	25.0
どれも役立っていない	1	25.0
総計	8	

^{※1} 複数回答可。延べ回答数 ※2 アンケートの回答者数4名に対する回答数の割合

【生命環境化学科】

選択肢	回答数※1	割合 (%) ※2
1. 自己管理力	1	50.0
4. 倫理観	1	50.0
5. 市民としての社会的責任(社会発展・貢献への意識)	1	50.0
どれも役立っていない	1	50.0
総計	4	

^{※1} 複数回答可。延べ回答数 ※2 アンケートの回答者数2名に対する回答数の割合

【情報システム学科】

選択肢		回答数※1	割合 (%) ※2
1. 自己管理力		5	71.4
2. チームワークカ		4	57.1
6. 生涯学習力(自立・自律して継続的に学ぶ意欲)		3	42.9
3. リーダーシップ(指導力、統率力)		2	28.6
4. 倫理観		2	28.6
5. 市民としての社会的責任(社会発展・貢献への意識)		1	14.3
どれも役立っていない		1	14.3
	総計	18	

^{※1} 複数回答可。延べ回答数 ※2 アンケートの回答者数7名に対する回答数の割合

【情報社会学科】

選択肢	回答数※1	割合 (%) ※2
1. 自己管理力	6	100.0
6. 生涯学習力(自立・自律して継続的に学ぶ意欲)	4	66.7
2. チームワークカ	3	50.0
4. 倫理観	3	50.0
3. リーダーシップ(指導力、統率力)	2	33.3
5. 市民としての社会的責任(社会発展・貢献への意識)	1	14.3
総計	19	

^{※1} 複数回答可。延べ回答数 ※2 アンケートの回答者数6名に対する回答数の割合

【心理学科】

10 1112			
選択肢		回答数※1	割合 (%) ※2
2. チームワークカ		2	100.0
6. 生涯学習力(自立・自律して継続的に学ぶ意欲)		2	100.0
1. 自己管理力		1	50.0
3. リーダーシップ(指導力、統率力)		1	50.0
4. 倫理観		1	50.0
5. 市民としての社会的責任(社会発展・貢献への意識)		1	50.0
	総計	8	

 $^{{\}it **}$ 1 複数回答可。延べ回答数 ${\it **}$ 2 アンケートの回答者数 2 名に対する回答数の割合

p.12に戻る

【集計表 13-1:回答者が正課外活動を通じて身に付けた能力・態度・志向性のなかで、

現在の職業・生活において役立っているもの 学科別】

説明 = 集計表 13 について回答者の在学中の所属学科による内訳を示した表

		在学中の所属学科による内訳					割合
選択肢	答 数 ※ 1	機械	生命	情シ	情社	心理	(%) ※2
1. 自己管理力	5		1	2	1	1	23.8
2. チームワークカ	9	1		2	4	2	42.9
3. リーダーシップ(指導力、統率力)	6			1	4	1	28.6
4. 倫理観	6	1	1	1	2	1	28.6
5. 市民としての社会的責任(社会発展・貢献への意識)	5	1		2	1	1	23.8
6. 生涯学習力(自立・自律して継続的に学ぶ意欲)	7		1	2	3	1	33.3
どれも役立っていない	6	2	1	3			28.6
その他: (所属していなかった。)	1	1					4.8
総計	45	6	4	13	15	7	

^{※1} 複数回答可。延べ回答数 ※2 アンケートの回答者数21名に対する回答数の割合

【集計表 13-2:回答者が正課外活動を通じて身に付けた能力・態度・志向性のなかで、

現在の職業・生活において役立っているもの_学科別】

説明 = 集計表 13 について回答者の在学中の所属学科別の結果を抽出した表

【機械工学科】

選択肢		回答数※1	割合 (%) ※2
どれも役立っていない		2	50.0
2. チームワークカ		1	25.0
4. 倫理観		1	25.0
5. 市民としての社会的責任(社会発展・貢献への意識)		1	25.0
その他: (所属していなかった。)		1	25.0
総	計	6	

^{※1} 複数回答可。延べ回答数 ※2 アンケートの回答者数4名に対する回答数の割合

【生命環境化学科】

選択肢		回答数※1	割合 (%) ※2
1. 自己管理力		1	50.0
4. 倫理観		1	50.0
6. 生涯学習力(自立・自律して継続的に学ぶ意欲)		1	50.0
どれも役立っていない		1	50.0
:	総計	4	

^{※1} 複数回答可。延べ回答数 ※2 アンケートの回答者数2名に対する回答数の割合

【情報システム学科】

選択肢	回答数 ※ 1	割合 (%) ※ 2
どれも役立っていない	3	42.9
1. 自己管理力	2	28.6
2. チームワークカ	2	28.6
5. 市民としての社会的責任(社会発展・貢献への意識)	2	28.6
6. 生涯学習力(自立・自律して継続的に学ぶ意欲)	2	28.6
3. リーダーシップ(指導力、統率力)	1	14.3
4. 倫理観	1	14.3
総計	13	

^{※1} 複数回答可。延べ回答数 ※2 アンケートの回答者数7名に対する回答数の割合

【情報社会学科】

選択肢		回答数 ※ 1	割合 (%) ※ 2
2. チームワークカ		4	66.7
3. リーダーシップ(指導力、統率力)		4	66.7
6. 生涯学習力(自立·自律して継続的に学ぶ意欲)		3	50.0
4. 倫理観		2	33.3
1. 自己管理力		1	16.7
5. 市民としての社会的責任(社会発展・貢献への意識)		1	16.7
á	総計	15	

^{※1} 複数回答可。延べ回答数 ※2 アンケートの回答者数6名に対する回答数の割合

【心理学科】

選択肢	回答数 ※ 1	割合 (%) ※ 2
2. チームワークカ	2	100.0
1. 自己管理力	1	50.0
3. リーダーシップ(指導力、統率力)	1	50.0
4. 倫理観	1	50.0
5. 市民としての社会的責任(社会発展・貢献への意識)	1	50.0
6. 生涯学習力(自立・自律して継続的に学ぶ意欲)	1	50.0
総計	7	

^{※1} 複数回答可。延べ回答数 ※2 アンケートの回答者数2名に対する回答数の割合

<u>p.13に戻る</u>